

報道関係各位

2026年2月18日

WHAT MUSEUM、2026年4月21日（火）より 建築家8組による新作模型展「波板と珊瑚礁 - 建築を遠くに投げる八の実践」を開催 空間に入り込み、近づき、手に取る。多様な模型から、気鋭建築家の思考に触れる

寺田倉庫株式会社（東京都品川区 代表取締役社長：寺田航平）が運営する現代アートと建築のミュージアム「WHAT MUSEUM（ワットミュージアム）」は、2026年4月21日（火）から2026年9月13日（日）まで、「波板と珊瑚礁 - 建築を遠くに投げる八の実践」を開催します。WHAT MUSEUMの建築倉庫では、これまで建築家や設計事務所から預かった模型を保管・展示し、模型を通して建築文化を発信してきました。本展では、建築家の思考や哲学を表現するメディアとしての「模型」に焦点を当て、国内外で活躍する新進気鋭の建築家8組が本展のために制作した模型を展示します。言葉や図面では捉えきれない建築家それぞれの思考を、空間的・身体的に体感できる建築展です。



「建築家の思考を知る装置」としての模型

建築模型は、建築の姿を立体的に示すものとして広く知られています。一方で、建築家にとって模型は、空間や構造、社会に対する自らの視点や思考を形にするための重要な表現手段でもあります。

本展で紹介する模型は、建物の完成像を示すためのものではありません。建築家が世界をどのような視点で捉え、どのような構えで向き合っているのか、その思考そのものを立体化したものです。来場者は模型を通して、図面や言葉だけでは捉えきれない建築家の思考に、空間的・身体的に触れることができます。

新進気鋭の建築家8組による、本展のための新作模型

参加建築家は、ALTEMY、Office Yuasa、ガラージュ、GROUP、DOMINO ARCHITECTS、畠山鉄生+吉野太基+アーキペラゴアーキテクツスタジオ、平野利樹、RUI Architects の8組です。いずれも現在進行形の社会のなかで、「建築とは何か」という問い合わせながら活動を続けてきた建築家たちで、本展のために新たな模型を制作します。会場には全周約12mの模型をはじめ、鑑賞者が空間に入り込んで観察できるものや、直接手に取ることのできるものなどがあります。スケールや形式の異なる模型を通して、建築家ごとの思考のかたちに触ることができます。

変化する社会と、建築の思考

情報技術の進展や、災害、パンデミック、気候変動などを背景に、社会の前提是大きく揺れ動いています。建築の分野でも、目の前の課題への即応が求められる一方で、時間や場所を超えた長期的な視点で構想する重要性が改めて問われています。

本展のタイトルにある「波板と珊瑚礁」は、身近で人工的な建築素材と、長い時間をかけて形成される自然の構造物という、性質の異なる二つの存在を示す言葉です。それぞれの時間やスケール、生成の速度が交差しながら共存する状態を表しています。本展では、身近な素材や構造物を手がかりに、広い視野で建築を捉え直す建築家たちの試みを、模型を通して紹介します。模型というメディアを介して彼らの思考と想像力に触れることで、建築家が社会や環境どのように向き合っているのかを体感的に知ることができます。

【開催概要】

タイトル：波板と珊瑚礁 - 建築を遠くに投げる八の実践

会期：2026年4月21日（火）～2026年9月13日（日）

会場：WHAT MUSEUM（〒140-0002 東京都品川区東品川 2-6-10 寺田倉庫 G号）

開館時間：火曜～日曜 11:00～18:00（最終入館 17:00）

休館日：月曜（祝日の場合、翌火曜休館）※2026年5月4日（月・祝）、5月5日（火・祝）は開館

入場料：一般 1,500円、大学生/専門学生 800円、高校生以下 無料

※日時指定のオンラインチケットは 200円引き（他割引との併用不可）

主催：WHAT MUSEUM

企画：WHAT MUSEUM 建築倉庫、SUNAKI

後援：品川区、品川区教育委員会

公式サイト：<https://what.warehouseofart.org/exhibitions/corrugatedcoral>

※会期中には、出展建築家によるトークイベントや建築倉庫での連動展示を予定しています。詳細は順次お知らせいたします

【出展建築家・展示作品について】※五十音順・敬称略

ALTEMY 「往還する身体」

都市の群像と鑑賞者が交わり、互いが他者のアーキテクチャとなる「往還」の関係性を立ち上げる。均質化されたヒトから「固有の身体」を見出し、私と他者が互いに環境となり続ける状況そのものを建築として提示する。

プロフィール：津川恵理が代表を務める建築デザインスタジオ／一級建築士事務所。建築、ランドスケープ、インсталレーション、モビリティ、ファッショなど、分野を問わず“アーキテクチャ”として設計している。

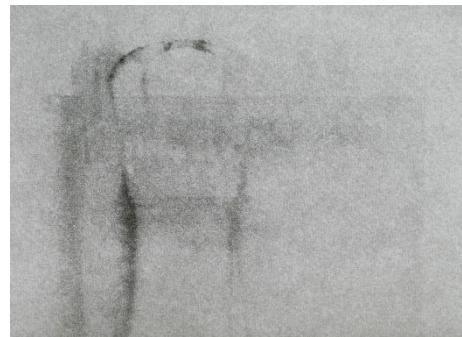


©ALTEMY

Office Yuasa 「闇、遅れた微光」

蓄光を施した壁一面と5組の読書台に、来場者の点灯と読書の痕跡が消灯後に燐光として現れる。暗闇に重なる不在の輪郭が微光の模様を結び、同時に消費される日常に、遅延として立ち上がる透明な間柄。

プロフィール：湯浅良介/1982年東京都生まれ。東京藝術大学大学院修士課程修了。内藤廣建築設計事務所を経て、2019年よりOffice Yuasaを主宰。2024年より多摩美術大学准教授。



©Office Yuasa

ガラージュ 「ほどかれた結界」

建築の集団性・身体性に着目し、即興的な仮設の構造体を展開する。領域をとじたり、ひらいたり、つないだりするような「ほどかれた結界」。これは原寸のスタディ模型でありながら、祝祭性を帯びた劇的空間でもある。

プロフィール：建築・映像・演劇の専門領域をもつメンバーによって構成された建築集団。建築を「変化しつづける事象の一過程」と考え、映像／演劇／お祭／フィールドワーク等も含めた時間・空間のデザイン活動を実践している。



©ガラージュ

GROUP 「都市と眠り」

東京、渋谷で、ふいに眠くなる。微睡のなかで、渋谷の匂いと音が薄く混ざり、呼吸に合わせて身体がかすかに揺れる。人々がビルのあいだを波のように行き交う。私はその隙間に眠る場所をつけ、スマホをしまい、目を閉じる。

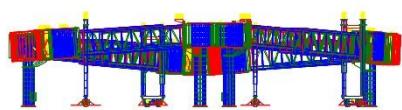
プロフィール：建築プロジェクトを通して、異なる専門性を持つ人々が仮設的かつ継続的に共同できる場の構築を目指し、建築設計・リサーチ・施工をする建築コレクティブ。



Photo by ma.psd

DOMINO ARCHITECTS 「PULP FICTION (jetway)」

思考実験を保存観察するための模型。ずっと思い描いている空間がいくつかある。空港にある可動式の搭乗橋を連結してできた空中回廊。搭乗ゲートをくぐって飛行機に乗るまでの間の、あの機能的で象徴的で刹那的なスロープをいつまでも歩いていられる。入口も出口もないし、永遠に飛行機には乗れないけれど。

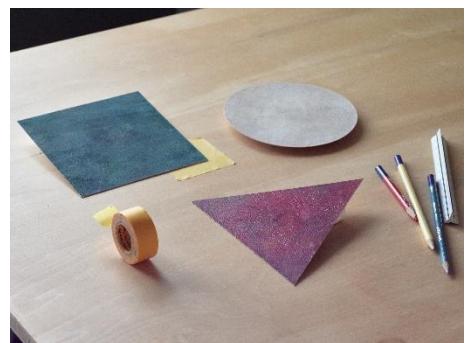


©DOMINO ARCHITECTS

畠山鉄生+吉野太基+アキペラゴアーキテクツスタジオ 「What is ○△□？」

まる・さんかく・しかくを、私たちは本当に知っていると言えるのだろうか。もしくあるがままに観ることが可能だとしたら、そこに「ある」もの、あるいは「ない」ものは何なのだろうか。

プロフィール：畠山鉄生/1986年富山県生まれ。増田信吾+大坪克亘を経て2017年アキペラゴアーキテクツスタジオ設立。吉野太基/1988年熊本県生まれ。長谷川豪建築設計事務所を経て2020年アキペラゴアーキテクツスタジオ参画。



©アキペラゴアーキテクツスタジオ

平野利樹 「東京箱庭計画」

箱庭療法の手法や生成AIをとおして物質化された個人の無意識・オブセッションを、東京湾を対象に都市スケールのプロジェクトに投射する方法論の実験をおこなう。

プロフィール：建築家、研究者。1985年生まれ。東京大学建築学専攻博士課程修了。建築の新しい美学を、デジタルテクノロジーの活用や、美術・哲学など他領域との議論を通して探究する。

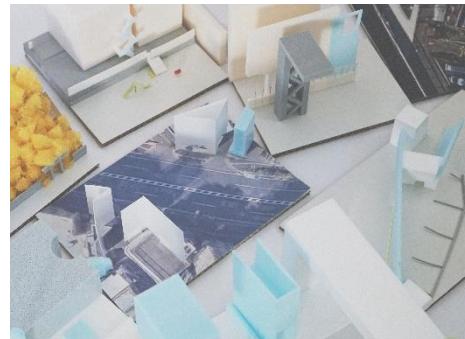


©Toshiki Hirano

RUI Architects 「Prop」

街を歩いて気になった場を模型にしてみると、矛盾だらけの世のなかで、どうにか折り合いをつけてきた事物らが語り出してきた。そこにあるユーモアやどうしようもなさを掬い上げることができるだろうか。

プロフィール：2018年、板坂留五により設立。建築設計を軸にプロダクトデザインや企画など、他領域との活動も積極的に行う。Under 35 Architects exhibition 2021 Gold Medal 受賞。



©RUI Architects

【音声ガイドのご案内】

WHAT MUSEUM 公式アプリをダウンロードすると、無料で音声ガイドをご利用いただけます。本展では、モデル・市川紗椰が音声ガイドナビゲーター（日本語・英語）を務めます。展示作品の解説や展覧会の見どころを分かりやすくご紹介します。



市川紗椰（いちかわ さや）プロフィール

アメリカ・デトロイト育ち。16歳の時にスカウトされ雑誌の専属モデルとしてデビュー。以来、数多くのファッション誌で活躍。趣味は音楽、読書、アニメ鑑賞、鉄道、アート、相撲、食べ歩きなど多岐にわたる。

【WHAT MUSEUMについて】 <https://what.warehouseofart.org>

寺田倉庫が運営する「WHAT MUSEUM」は、倉庫空間を現代アートや建築との出会いの場へと昇華させた、倉庫会社ならではのミュージアムです。倉庫内で静かに光を放つ文化的価値を暗示した、WHAT (WareHouse of Art Terrada) の名のもとに展示されるのは、平面や立体のアート作品をはじめ、建築模型、写真、映像、文学、インсталレーションの数々。寺田倉庫が作家やコレクターからお預かりしている作品も紹介することで、作品の保管、展示、交流の場を繋ぎます。さらに、天王洲という国際的なアートシティのハブとして、地域のアートコミュニティの核となり、倉庫空間から世界へ芸術文化を発信しています。

【建築倉庫について】

WHAT MUSEUM の建築倉庫では、建築家や設計事務所からお預かりした 800 点以上の建築模型を保管し、倉庫内でその一部を公開しています。建築模型を軸に建築の魅力を発信するため、「ガウディをはかる -GAUDI QUEST-」(2019年)、「謳う建築」(2020年)、「感覚する構造」(2023年～2024年)など、企画展を多数開催してきました。建築模型を用いた企画展示やワークショップ、イベントも定期的に開催しています。



Photo by Katsuhiro Aoki

【寺田倉庫について】

社名：寺田倉庫株式会社（Warehouse TERRADA）

代表者：代表取締役社長 寺田航平

所在地：〒140-0002 東京都品川区東品川 2-6-10

設立：1950 年 10 月

URL : <https://www.terrada.co.jp>

天王洲アートポータルサイト : <https://warehouseofart.org>

**【本展覧会および WHAT MUSEUM に関するお問い合わせ先】**

WHAT MUSEUM E-MAIL : info.what@terrada.co.jp

【報道関係者お問い合わせ先】

寺田倉庫 広報チーム E-MAIL : pr@terrada.co.jp